

Opera Net Hitachi

オペラネットひたち 2017.11 Vol.10

発行： ひたち市民オペラによるまちづくりの会、公益財団法人日立市民科学文化財団

大成功! モーツァルトも驚いた? 《魔笛》ひたちオリジナル版公演

第9回子どもオペラ学校成果発表公演が、7月30日(日)日立シビックセンター音楽ホールで開催されました。子どもオペラ学校は、モーツァルト作曲《魔笛》を題材に「考える」「理解する」「伝える」を共通のテーマとして、第8回のワークショップ形式を経て、第9回の成果発表公演へ向けてのプログラムが進められてきました。

《魔笛》には親しみのある曲や楽しい曲がたくさんあります。初めは簡単に歌えると思った生徒たちも、いざ歌ってみると難しく苦戦したようです。でも、みんな熱心に練習し、自分の役だけでなく、他の曲も歌えるようになりました。



会場全体が盛り上がった「パパパ」

いよいよ本番。メイクをし衣裳をつけると、もう登場人物になり、張り切ってステージに立ちました。長いセリフも難なくこなし、自分たちで工夫したダンスも楽しそう。三重唱も合唱も美しいハーモニーを響かせ、難しいアリアを見事に歌い上げました。会場からは大きな拍手が起こりました。いくつもの人物を演じた生徒は、衣裳を着替えるとすぐ役になりきりはつらつと演じ、ますます会場は盛り上がり、観客の皆さんと一体になって創りあげた公演となりました。終演後、「楽しかった」「もっとやりたい」「もう終わっちゃった」そんな感想が聞かれました。どの生徒の顔にも達成感が溢れていました。

また、子どもオペラ学校卒業生が、ザラストロ役、3人の侍女役、合唱に参加し、練習中にはたくさんの交流や笑顔が生まれ、合唱は、より厚みのある美しいハーモニーを響かせました。これまでの伝統が引き継がれ、また新しい何かが生まれました。

🎵 公演の1週間後に振り返り授業がありました。.....

《魔笛》公演のVTR鑑賞と全曲上演です。公演と同じ内容で、台本は持たず、衣裳もつけず、やってみたい人物に挑戦し、役になりきります。セリフでつかえると誰かが教え、出番のタイミングで背中を押す人もいて、いつの間にかみんなが一緒に歌い、演じていました。最後は拍手と爆笑。ソリストのアリアやセリフをよく覚えた后感心しました。生徒たちだけのオペラ上演。とても感動的でした。

🎵 ひたち市民オペラによるまちづくりの会

ひたち市民オペラによるまちづくりの会の子どもオペラ学校担当チームに入り、会議への出席や運営のお手伝いをした高校生。また、衣裳チームに入り、衣裳づくりや公演の際の衣裳替えを手伝った高校生もいました。これからも子どもオペラ学校から目が離せません。